



野田小学校 学校だより

南風の丘から

学校づくりのモットー
明るく楽しく美しく
校長 犬嶋博之

あの日を語り継ぐ

真夏の酷暑の中、東京オリンピックが開催され、たくさん感動を残して昨日、閉会しました。そして、今日は八月九日。76年前のあの日のナガサキは曇り空にもかかわらず、最高気温が三〇を越えていたことを気象庁の記録に見つけました。空に広がる雲の切れ間に、薄らと青空が見えた十一時二分、その時を迎えました。

原爆投下直後の死者…7万4千人

翌日から長崎市内は、連日、夏の日差しが照り続け、最高気温が三十四度を超える日(八月二三日)もあつたとありました。放射線の影響などに苦しみながら生きてこられた御霊は18万を超えています。
(令和二年八月九日現在一八万五九八二名、死没者名簿から)

八月九日

この日を登校日にして「平和集会」を開くのは、長崎県の学校だけです。しっかりと語り継ぎたいと思います。

(下の写真は、今年の社会科見学の様子)



夏休みには

「自分から」を鍛えよう

一学期の終業式では、子どもたちに次のことをテーマに話をしました。

- ・朝起きるのも寝るのも自分から。
- ・勉強も手伝いもあいさつも自分から。
- ・ゲームやテレビ、インターネットをやめるのも自分から。

「主体的に」がこれからの社会を生き抜くためのキーワードですが、これを育てるのはなかなか難しいですね。世間でも「何とかしたい!」と思っている人(親)が多くなるらしく「Family」という雑誌(二〇二三年夏号)に『やる気を生み出す生活習慣』というのが載っていました。(参考までに)

〈家の中の生活が規則正しい〉

- ・起床や就寝の時刻が定まり、食事は家族そろって食べる、家の中が整理整頓とんざれている。

〈子どもが尊重されている〉

- ・子どもの意見を大事にし、自分で考えよう求めている。

〈親がいつも子どものよいところを探している〉

- ・親(家族)が子どもの話をよく聞き、失敗を責めず、子どもの趣味や得意なものを応援している。

〈家の中に知的な刺激がある〉

- ・親自身が新聞を読んだり、読書をしたりし、ときに美術館や科学館などに出かけている。

これを見ると、学校も同じだなと感じたところ。二学期へ向けて磨きを掛けます!



〈コラム あかね雲〉

「主体性」をはぐくむために

新しい学習指導要領が最重要として求める「主体性」をもった子どもをはぐくむために、私たちは、次のことを申し合わせました。

「子どもの話をしっかりと聞く。」

具体的には「何に困っているのか」「どうしたいのか」「何を支援して欲しいのか」を「言いたい気持ちをラッパとこらえて」聞くということです。

社会の変化を見つめる中で、私たちが行っていること(授業の行い方、宿題の出し方、「子ども」という存在の捉え方 など)の是非を見つめなおす必要を感じています。このようなことを考えている中で、昔、先達に御指導を受けながら紡ぎ出した言葉を思い出しました。

「真の教育改革は、自己改革だ。」

《 主な行事予定 》

<8月>

- 10日(火) …代休(8月9日分)
- 11日(水) …学校閉庁日 ~15日
- 20日(金) …登校日(自由研究等提出日)
ブシ給食(下校は13時30分頃)

<9月>

- 1日(水) …始業式、給食あり
(下校は13時30分頃)
- 2日(木) …短縮日課(下校は13時20分頃)
- 6日(月) …夏休み作品展~9月10日
読書週間~9月30日
- 7日(火) …修学旅行説明会(6年生)
1年生授業参観・学年部会
- 15日(水) …普賢岳災害を語り継ぐ日
海岸清掃・砂の造形
- 28日(火) …修学旅行(6年生)~29日
- 30日(木) …おやじの読み語り

《心に響いた言葉》 「校長先生、こんにちは!」

夏休み中のある日、偶然に加津佐のコンビニで会った児童のあいさつから。元気な笑顔を見ることができて嬉しかったです。



シリーズ「令和の日本型教育」とはなんぞや？

〈第二回〉

「カリキュラム」

マネジメントの充実」について

「カリキュラム・マネジメント」は、学校教育全体に関わる重要な項目なのですが、この言葉からして一般には馴染みが無いと思いますので、まずは語句の説明から。

カリキュラムとは

教科の授業や行事、児童会活動など、学校教育目標を達成するために、学年や児童の状況等にに応じて、順序だてて編成した教育活動の計画。

〈留意事項〉

カリキュラムには、教科や行事などの「目に見える」内容もあれば、教員や児童同士の間に起こる感化や環境が与える影響などの「目に見えない」ものもあり、児童はその両方について学ぶ。

カリキュラム・マネジメントとは

取り組んだ活動の結果や効果等を評価し、「ひと」とき」もの」などを編成したり内容や方法を再検討したりして繰り返し改善を図りながら、よりよい教育を創り上げていくこと。

カリキュラム・マネジメントに関しては「令和の日本型教育」では、①「他の教科や諸活動とのつながりを意識して編成すること」を求めるとともに、②「教科の授業時数を弾力的に再配分すること」を可能にする」ことが記されています。

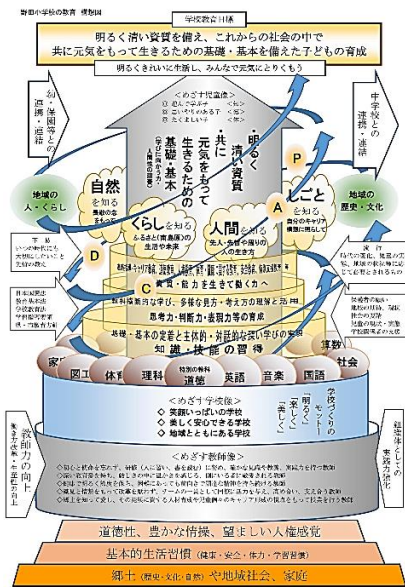
本校での取組

前段の①「つながり」を

意識した編成」については、

本校リーフレットに掲載して

いる「教育構想図(ランドデザイン)」にお示しているとおおり、教科での学びが「自然」や「人間」「くらし」「しごと」を深く知ることにつながるよう構想しています。



そして、これらの学びが子どもたち自身の

将来就きたい仕事に生かされたり、実現した

い夢につながったりするよう「キャリア教育」

を推進しているところです。(通知表に綴

じた『キャリア・マネジメントシート』参照。さらに

②「授業時数の弾力的再配分」(ある教科の時

数を増やして(他教科を減らして)授業を行う取組

については、本年六月末に報道で発表された

ところですが、本校の方針としては、その必

要性を見い出せませんので、標準時数で進めたいと考えています。

「南島原市自転車活用推進計画」

ふるさとの文化・歴史・人物——野田小教育の視点から
島原鉄道の本市内の路線は、大正八年開業から普賢岳災害などを経て、平成二十年四月一日に廃線となりました。あれから十三年、新しいプロジェクトがいよいよ(！)動き出しました。

南島原自転車道路とは

令和元年11月に策定した「南島原市自転車活用推進計画」により、島原鉄道跡地の約32.1kmを自転車歩行者専用道路として整備するものです。(本市ホームページから)

加津佐・深江間を結び、有明海や雲仙を眺めながら世界文化遺産やジオパークを巡る自転車と歩行者がゆつたりのおんびりと通行できる道ができると思うと心からワクワクします。

本市のホームページにある推進計画には、「九州横断サイクルルート(仮称)」という壮大で綿密な計画書が掲載されていますので、ぜひ御覧ください。

私としては自転車でスイスイと走るために、まずは体重を減らそうと思う今日この頃です。



【お知らせ】「閉庁日」等について】

本市の全小中学校は、八月一〇日から八月十五日までを閉庁日とします。緊急の連絡がある場合は市教委にお問い合わせください。

また、新型コロナウイルス感染症には十分留意され、子どもたちが、二学期を元気に迎えることができるよう御協力ください。